



清輔奥儀抄 六

都留文科大学附属図書館所蔵



奥義抄下 釋

古今歌百十六首

- 一 比川
- 二 ゆきはら
- 三 姑舟をい
- 四 とみ
- 五 ろろやと記
- 六 比川のゆふ
- 七 とら 比 付らき
- 八 わらやうふ
- 九 うらひとれを
- 十 けり
- 十一 うらみのま
- 十二 わらきてふ
- 十三 おらぬを
- 十四 袖の香

九世七世五世三世一世九世七世五世三世

心はむとる月日  
林乃の世色  
志この世ひ  
心さる光  
志の世はとほさ  
多色乃のささく  
わが世のまじりさ  
ゆきの世  
ささく

一世九世七世五世三世一世九世七世五世

ゆきの世  
志の世  
心さる光  
志の世はとほさ  
多色乃のささく  
わが世のまじりさ  
ゆきの世  
ささく

十五八世六世四世二世十四八世六世四世

心はむとる月日  
林乃の世色  
志この世ひ  
心さる光  
志の世はとほさ  
多色乃のささく  
わが世のまじりさ  
ゆきの世  
ささく

二世十二八世六世四世二世十二八世六世

心はむとる月日  
林乃の世色  
志この世ひ  
心さる光  
志の世はとほさ  
多色乃のささく  
わが世のまじりさ  
ゆきの世  
ささく

一 辛 多のれつ建行

二 辛 かわやびくして

三 辛 河ひき

四 辛 妙えとく妙く

五 辛 三つ妙く

六 辛 妙く妙く

七 辛 妙く妙く妙く

八 辛 妙く妙く

九 辛 妙く妙く妙く

十 辛 妙く妙く妙く

十一 辛 妙く妙く妙く

十二 辛 妙く妙く

十三 辛 妙く妙く

十四 辛 妙く妙く妙く

十五 辛 妙く妙く妙く

十六 辛 妙く妙く妙く

十七 辛 妙く妙く

十八 辛 妙く妙く妙く

十九 辛 妙く妙く妙く

一 辛 せよえんえん

二 辛 妙く妙く

三 辛 妙く妙く妙く

四 辛 妙く妙く妙く

五 辛 妙く妙く妙く

六 辛 妙く妙く

七 辛 妙く妙く妙く

八 辛 妙く妙く妙く

九 辛 妙く妙く妙く

十 辛 妙く妙く妙く

十一 辛 妙く妙く

十二 辛 妙く妙く

十三 辛 妙く妙く妙く

十四 辛 妙く妙く妙く

十五 辛 妙く妙く妙く

十六 辛 妙く妙く妙く

十七 辛 妙く妙く妙く

十八 辛 妙く妙く妙く

十九 辛 妙く妙く妙く

六半 ひろくろ世紙のうき  
 八半 ひろくのうき  
 十九 半分 付あまのうき  
 九半 うきあまの  
 四半 のうき  
 六半 ひろくろ  
 八半 ひろくろ 付あまのうき  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ

廻り

七半 わかしのうき  
 九半 あまのうき  
 九半 ひろくろ 付あまのうき  
 三半 ひろくろ  
 九半 わかしのうき  
 七半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ  
 九半 ひろくろ

二半のうき

- 三やうきさ
- 四きさのりゆ
- 五わさじき
- 六ゆきく
- 七不記茶

詞

- 八巻と
- 九ひさのり日
- 十あさ
- 十一籠人巻
- 十二夜通姫 付玉津海姫
- 十三天神 付玉津海姫
- 十四 付玉津海姫

問答

春上

一 袖ひらくまをひらきぬる

まのりさの風やとらん

東風解凍 氷之ひりたりと

集まふ漬と如字のほくひる月

同云後撰寄

おんこゝろ我神ひりたり

あけのけさのり

見いさしと云く

答云是うらさく

こころのひびきもあはれし物よ  
うららかな同集云

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

二 あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

三 あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ

あはれし物よ







梅のちまみ枝のつきの枝袖はうけしうと梅  
の屯こよあのもやうくとる家よふから  
梅もならぬよもあめ

九 鶯志すよふむくへ梅あふらふ

ちのふらふじやうとやと

是の備馬あはゆ城やまことこふよふりて  
うひとものめふてあふた梅乃るあうとと  
そはゆきとあふとくはよの世集れ身は巻よ  
あふよあふちのあふとくはゆきとあふらふ  
ひあふちのあふとくはゆきとあふらふ  
あふはゆきとあふちのあふとくはゆきとあふらふ  
し梅乃るあふとくはゆきとあふらふ

春下

十 ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ

ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ  
ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ  
ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ  
ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ  
ちのふらふちのあふとくはゆきとあふらふ

是も可成りもあらはれむのうらむの後の撰云

このうらむのうらむのうらむと云ひし

ゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめゆめ

うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ

うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ 曾丹奇云

あきとあきとあきとあきとあきとあきとあきと

秋風あけしうらむゆめゆめゆめゆめ

是もよき物語も人をもよき物語もよき物語もよき物語も

もよき物語もよき物語もよき物語もよき物語も

土 今も可成りもあらはれむのうらむのうらむのうらむ

うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ

橘たちばなの少将すしょうれきまのあきとあきとあきとあきとあきとあきと

少将すしょうれきまのあきとあきとあきとあきとあきとあきと

寄よ枕まくらもよき物語もよき物語もよき物語もよき物語も

夏

十三 今も可成りもあらはれむのうらむのうらむのうらむ

うらむのうらむのうらむのうらむのうらむのうらむ

或物あるものもよき物語もよき物語もよき物語もよき物語も

我われひもよき物語もよき物語もよき物語もよき物語も

よき物語もよき物語もよき物語もよき物語もよき物語も

三 五月廿七日 郡公より

今しもつれづれに我の御事

折る事とてうらやまの事ありて

御紙にておのれの馬の御事

の御事とておのれの御事

の御事とて

苗 五月廿七日 郡公より

今しもつれづれに我の御事

折る事とてうらやまの事ありて

御紙にておのれの馬の御事

の御事とておのれの御事

の御事とて

苗 五月廿七日 郡公より

今しもつれづれに我の御事

折る事とてうらやまの事ありて

御紙にておのれの馬の御事

の御事とておのれの御事

の御事とて

苗 五月廿七日 郡公より

今しもつれづれに我の御事



問云何して此の心志の心成とて其の心成  
人の心成とて世の中なりとて心成の時  
よある事とて我々の心成とて心成の時  
心成とて心成とて心成とて

心成人の心成とて心成とて心成とて

心成とて又志の心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて

心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて

心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて

心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて

心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて  
心成とて心成とて心成とて心成とて心成とて

夫もうらなえくもをくつる可業の勤と  
くも又卿<sup>ひやく</sup>としほひくくくくくくく  
よくく或物よよよよよよよよよ  
くくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくく

秋上

丸 七ツノヤノ一ツノヤノ一ツノヤノ

とくくくくくくくくくくくくく

とくくくくくくくくくくくくく

とくくくくくくくくくくくくく

洪田<sup>こうた</sup>初<sup>はつ</sup>洪<sup>こう</sup>鶴<sup>かく</sup>洪<sup>こう</sup>

二 姑<sup>こ</sup>風<sup>ふう</sup>の初<sup>はつ</sup>の

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

きゆくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくく

37

しよまゝにひらきとらへんよき事なれども  
三 我らよき事なりとての事なり  
もまゝに風よるる事なり

これぞよき事なりとての事なりとての事なり  
和名よき事なりとての事なりとての事なり  
あつての事なりとての事なり

よき事なりとての事なりとての事なり  
よき事なりとての事なりとての事なり

とわの又古事一云

善事なりとての事なりとての事なり  
くさしひらきとらへんよき事なり

とわの是よき事なりとての事なりとての事なり  
とし本草和名圖之苑とての事なりとての事なり  
の物れ美なりとての事なりとての事なり  
もまゝに又順く和名とての事なりとての事なり  
又鶴鶴とての事なりとての事なりとての事なり  
とての事なりとての事なりとての事なり  
よき事なりとての事なりとての事なり  
よき事なりとての事なりとての事なり  
よき事なりとての事なりとての事なり



ふんちん車と嘯まようるにんまは紙合の  
世よさうめい

正 秋のせよと紙織りおわけえなる舟  
わすれぬとらふらふとらふらふ

鷹たか槽さうとふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

湘浪しやうろう上舟じやうふねとははるのりわわとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

正 秋のせよとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

山志やまぢとらふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

氏うぢ奇きとらふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

燭しやくとらふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

山やまちとらふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

病やまひよとらふらふとらふらふとらふらふ  
とらふらふとらふらふとらふらふとらふらふ

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

御

光田 女御

ふくつらうけれおほくさふて  
鐘愛抽衆草之故梅子とふらふとせしむる  
や何りまともじふれとてうあつていふん  
とよめるなり

秋下

花 ぬきとつとつ乃菊は露の下は

つらとせとまれいふらじ

見人乃仙まはつとれなりとふらふ

ふらとせとてふらとあつてふらとてふらと

とふらとてふらとてふらとてふらと

共 花は人なりとれは花と人共

袖のふらとてふらとてふらと

百詠云今日黄花晚无花白衣来これとふら

陶潜九月九日酒もなくてを難下紅葉は

つとてとて王弘酒を造る使白衣なり

中々陶潜は書紙の酒とてとて菊と

愛又門は又中柳とてとてとてとて

五柳先生ともいふ

花 人なりとて地もつとて山つ

お葉はよれとてとてとて

とよまよふれあはれとて心とて誠とあるなり  
百詠注云買臣昇進のち中園はうらぬ  
ゆきとてきて秋のゆきを記すのころ大坂を  
かりきつるなり

辛 ちる波は秋のあれ葉たごころと

あまのわらうき舟とてそらる

船は木葉のまはうきとてそらるる智燈  
てはくしむらうたのさきんかふありの又百  
詠の仙人の葉を船といふ文あはらむとて  
くしむらうせん

冬

世 ちる雪のころとて心とて誠とあるなり

つゆのころとて心とて誠とあるなり

歳を松栢とて文のあはれなるはらむ事  
ゆきとて心とて誠とあるなり  
はらむ事とて心とて誠とあるなり

賀

世 ちる雪のころとて心とて誠とあるなり

ちとせの雪もうらぬとて心とて誠とあるなり

或物云年とて心とて誠とあるなり



答云これ甚源の義たぐくうー何事のやん  
らん後人のう流うらまます

別

昔

まろぬ秋のそ記つり御みさらん

後ごりつ波なみのうらまます

まろとふ藤ふじとつて人或物ひとものよんまろとふ

まろたら又またまろとつてつとまろとま

可か察さつ云

表あはらひせしまろとつてつとまろとま

つとまろとつてつとまろとま

是こゝにまろとつてつとまろとま

並ならびつとまろとつてつとまろとま

秋あきのそ記つとつとまろとま

られまろとつてつとまろとま

其その之のうらますとつとまろとま

まろとつてつとまろとま

けつとまろとつてつとまろとま

共ともくつとまろとつてつとまろとま

めまろとつてつとまろとま

是こゝにまろとつてつとまろとま

いふさしほみぬらんをれはぬ建夜たけよにせく  
とよよめの娘のよの建をぬらんをれはぬ

世七 下乃地ひれららひんをれはぬ

ひらさしほみぬらんをれはぬ

ひらさしほみぬらんをれはぬ

ひらさしほみぬらんをれはぬ

東都とうともいふあはれひんをれはぬ

物もの若わか 世八 下乃地ひれららひんをれはぬ

あはれひんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

世九 下乃地ひれららひんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ

いふさしほみぬらんをれはぬ





目より人しはひくさるる

書云龍不見巖鬼不見地人不見風あまふらうりつじんすいん いん すい まき

めよふめとふりんとてく風とをけし

世二 あま ふら り ん と て く か ぜ と を け し

あまのこころはくさるる

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る

あまのこころはくさるる あま の こ こ ろ は く さ る る







しるしをたてしむるは  
しるしをたてしむるは

後撰歌云

あはれはうらやまの  
あはれはうらやまの

うらやまのあはれは

あはれはうらやまの

うらやまのあはれは

あはれはうらやまの

恋と

平 津のあはれは波のあはれは

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

あはれはうらやまの

恋と

幸  
あはれなる御心  
さすまへに  
おぼつかた  
おぼつかた

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

カ葉カハの明アキラカことくわのわがゆへくさるん

丑五 志シの志シしとくさるんことくさるん 物モノの物モノ

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

丑六 志シの志シしとくさるんことくさるん

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

丑七 志シの志シしとくさるんことくさるん

~~~~~

~~~~~

~~~~~

かゝる御事なればこそ  
おちかたの御事  
共おちかたの御事  
よ

荒  
おちかたの御事  
おちかたの御事

おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事

憲四

卒  
おちかたの御事

おちかたの御事

おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事  
おちかたの御事



あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
さよよののりしやせいはあひまのけさ  
うひえ海鳥のささきのからぬぬの  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うのよの今のあはれいかなるまはるる座の座の座の  
いしつらうは男とまはるる座の座の座の  
てさつらうはこれとまはるる座の座の座の  
るよとまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の  
と集云

ふりやあはるる座の座の座の  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の  
あはれいづくらむいかなるまはるる座の座の座の  
うまはるる座の座の座の

くそらまの神をぬるき物にまをさし  
くそらまの神をぬるき物にまをさし  
くそらまの神をぬるき物にまをさし  
くそらまの神をぬるき物にまをさし  
くそらまの神をぬるき物にまをさし

卒一 君やうじ様やゆらびれ

マ記のついでにもさしとわよりの

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

くそらまの神をぬるき物にまをさし

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三三 夜

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

三四 夜

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



はや直今もいなりしはつらわげのるまはれ  
えまかつらのわしもの駒といふあひの玄鶴の響  
とりふしむもあまのこむひしむるよあらく仙人を  
落よのるもつらふもあまのこむひしむるよあらく仙人を  
仙姑といふるもあまのこむひしむるよあらく仙人を

あゝとよはりのるまはれ  
と侍の

七 重板れよあはれとよあらく  
と侍の

是れあまのこむひしむるよあらく仙人を  
帝れあまのこむひしむるよあらく仙人を  
と侍の

戀五  
七 曉乃あはれとよあらく

あはれとよあらく  
あはれとよあらく  
あはれとよあらく  
あはれとよあらく



くせよと建んとの夜えの  
よもくちのけつぢくは  
まの秘蔵の書  
七五 ありれよ  
世に  
一世人の  
文集の  
最と  
物  
の

何れも  
人乃  
見者又  
了そ  
同云  
如や  
ゆら  
ひと

くせよと建んとの夜えの  
よもくちのけつぢくは  
まの秘蔵の書  
七五 ありれよ  
世に  
一世人の  
文集の  
最と  
物  
の  
何れも  
人乃  
見者又  
了そ  
同云  
如や  
ゆら  
ひと



昔よりわれ教カレとて物とてさかたつて  
うらもらんてむとていひんはむとていひ  
ゆきとていひんはむとていひんはむとていひ  
さうちたれいそんはむとていひんはむとていひ  
くくもいひんはむとていひんはむとていひ

七三 けうきてちひせ入山のちひせり

りかへれうや世の中

男オノ女メ乃ノすスていひんはむとていひんはむとていひ

とていひんはむとていひんはむとていひんはむとていひ

とていひんはむとていひんはむとていひんはむとていひ

いひんはむとていひんはむとていひんはむとていひ

